

2004.07.20

参加：柏木・山中・石川・渡辺・山本・高橋・中嶋・神野・(藤村：全国理事、オブ参加)

1 2004 年度理事会・総会・年会の報告について

担当理事、幹事から予定どおり終了した報告があった。詳細については支部ニュースに掲載予定。

2 第 26 期役員の任務分担について

第 26 期理事及び幹事の任務分担をきめた。支部ニュースに掲載予定。

3 第 26 回夏季大学について

受講申込者は、現在 75 名。準備は順調に進んでいる。

4 近畿・中国・四国地区の例会講演会予定について

例年通り各地区理事から開催申し込みがあった。日時、場所、テーマ等について支部ニュースに掲載予定。

5 支部ニュース第 247 号の発行予定について

2004 年度理事会・総会・年会・夏季大学の報告等を記事とした支部ニュースを 8 月上旬に発行する予定。

6 2005 年秋季大会実行委員会の設置について

9 月に第 1 回実行委員会を開催できるよう、組織作りに早急に取り組む。構成委員は、近畿内の大学の委員及び大阪管区気象台と神戸海洋気象台の気象台の委員とする。大学の委員は神戸大学を中心とするが、京都大学はじめ他大学を含めたオール大学とする。任務分担は、大会委員長を柏木支部長、実行委員長を山中常任理事とする他、他の分担については委員の就任依頼を含めて検討していく。

7 関西支部財政状況について

財政状況は近年繰越金が減少しており、このままでいくと数年後には赤字財政となる状況が見込まれる。是正するためには、学会員を増やして収入を増やすこと、支出の見直しが必要である。学会員を増やすには、気象予報士の方を取り込むような方策が考えられるので具体化の検討が必要。支出の見直しについては、早急にとりかかる。具体的には支部ニュースの印刷・郵送費用が大きな割合を占めているので、廃止する方向で進める。

8 関西支部調査研究奨励金授与対象について

気象に関する調査・研究を対象としていたが、気象学の普及・教育に尽くしている人にも広く門戸をあけることで取り組んでいる。しかし、実際には応募や推薦がほとんどなく実効が上っていないのが実態である。理事や幹事は率先してこのような人を掘り起こし学会の発展に努めることが大事だが、一方、同奨励金規定についても教育分野を対象とする条項を定めるよう改定する。また、奨励金については、昨今の金利状況から一般会計から補填していたが、基金から支出する本来の形とする。

9 その他

次回、常任理事会は2005 気象学会秋季大会の実行委員会と同時開催で9月中旬の予定。